

# 第5章 全体構想

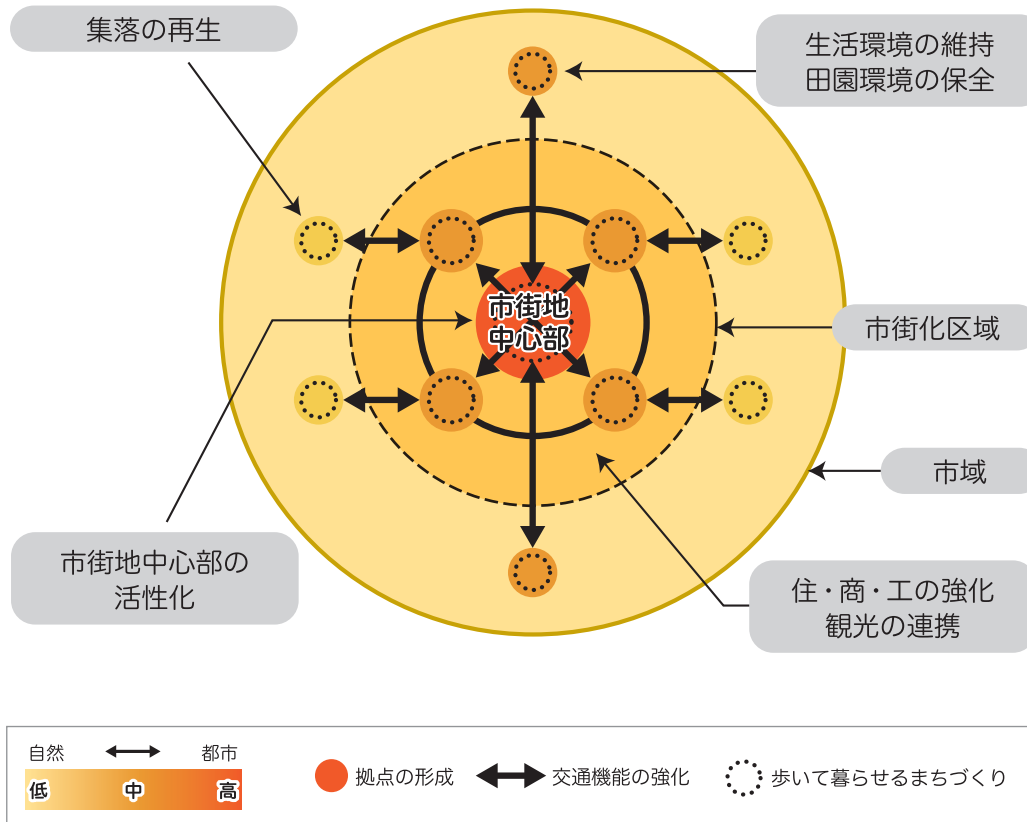
## 5.1 将来都市構想

### 1 まちづくりの基本方針

本市は、現在までのまちづくりの中で地形的な特性や歴史的な沿革、多様な住民生活の営みにより、社会的、経済的、文化的な特徴を持った様々な地域が形成されています。このため、都市機能が集積している市街地中心部のみならず、それぞれの地域にも、学校や公民館、駅などに代表される都市機能があり、これらが日常生活に必要な生活利便施設と補完し合うことで、地域の拠点的な役割を果たしています。

このような状況を踏まえ、本市のこれからのまちづくりは、各地域における既存ストックを活かし、都市機能の集積拠点や生活拠点の形成を進め、これらの拠点を中心ににぎわいを創出しながら、拠点間の連携を図ることで、一体的かつ持続可能なまちづくりを目指すことを基本方針とします。

足利市が目指す持続可能なまちづくり



## 2 基本方針に基づいたまちづくりの推進に向けて

### 想定人口

本市（都市計画区域＝市全域）の将来人口は、中長期的な人口の将来展望を示した「足利市人口ビジョン」に準拠し、平成37年（2025年）の人口を138,799人、平成47年（2035年）の人口を127,957人とします。

### 基本方針に基づいたまちづくりの推進

基本方針に基づいたまちづくりを推進するために、《骨格的土地利用》《都市の核となる拠点の形成》《都市軸、ネットワーク》を設定します。



- 1
- 2
- 3
- 4
- 5
- 6
- 7

全体構想

## 骨格的土地利用

- ▶ 市内を4つのゾーンに区分し、都市的土地利用を促すゾーンと自然環境を保全するゾーンとの役割分担により、都市の健全な発展と秩序ある土地利用を推進します。

### 市街地中心部ゾーン

- 足利駅と足利市駅を中心とした河北地域と河南地域の市街地を、市街地中心部ゾーンと位置付け、互いに連携し一体化を図り、都市機能の集積による、魅力ある市街地中心部の形成を図ります。

### 都市的土地利用ゾーン

- 市街地中心部以外の既成市街地を、都市的土地利用ゾーンと位置付け、既存ストックを有効活用し、利便性が高く、良好な居住環境を有する地域の形成を図ります。

### 田園的土地利用ゾーン

- 豊かな自然環境や田園環境に囲まれ、多様なライフスタイルに対応したゆとりある居住環境を提供する地域である既存集落地は、田園的土地利用ゾーンと位置付け、優良な自然や農地の保全に努め、魅力ある田園集落の形成を図ります。
- 当ゾーンにおいて、都市的土地利用の必要性が生じている地域は、農業との適切な調整を行った上で、土地利用を転換し、地域の振興を図ります。

### 自然的土地利用ゾーン

- 良好な自然環境を有している地域は、市民の憩いの場や、良好な景観を提供する場であることから、自然的土地利用ゾーンに位置付け、森林や水辺空間の利活用と自然環境の保全に努めます。

1

2

3

4

5

6

7

将来都市構想図：骨格的土地利用



- 1
- 2
- 3
- 4
- 5
- 6
- 7

全体構想

## 都市の核となる拠点の形成

- ▶ 市街地の規模や役割に応じて、必要な都市機能を集積した拠点づくりを進めるとともに、拠点間や周辺都市との連携による相互補完により、効率的な都市機能の利活用と都市の持続的な発展を促します。

### 広域拠点

- 商業、業務、学術、行政機能などの様々な都市機能が集積し、多様な土地利用を図る拠点として、市街地中心部を広域拠点に位置付けます。また、河北地域と河南地域の連携、一体化を図り、魅力的な市街地となるよう、公共交通を基本とした交通ネットワークの充実、強化を図ります。

### 地域複合拠点

- 競馬場跡地は、足利赤十字病院や五十部運動公園、防災ステーションなど、多様な機能を有する拠点であることから、地域複合拠点として位置付けます。また、当地域に存在する一団の未利用地については、市民の福祉や教育、文化の向上に寄与する機能の誘導を検討します。
- 足利大学大前キャンパス及び旧県立足利西高等学校は、本市の産・学・官連携の拠点であるとともに、映像のまち構想の拠点として利活用を図るため、地域複合拠点として位置付けます。
- JR両毛線富田、足利駅間に設置される新駅（あしかがフラワーパーク駅）周辺は、様々な産業の振興を図るため、地域複合拠点に位置付けます。
- 筑波、久野、梁田地区の国道50号沿線などは、産業をはじめとし、農業振興にも配慮した土地利用を図るため、地域複合拠点に位置付けます。

### 地域生活拠点

- 地域住民が日常生活における利便性を高め、暮らしやすい生活環境を創出するため、地域生活拠点を位置付けます。地域生活拠点では、日常生活に必要な店舗や診療所などの生活利便施設を誘導、保持するとともに、地域の多様な生活に配慮しつつ、地域コミュニティの維持を図ります。また、地域の利便性を向上するため、公共交通の充実を図ります。

### 産業振興拠点

- 活力ある産業活動の基盤づくりを推進するため、産業が集積した既存産業団地を産業振興拠点に位置付けます。また、本市の更なる産業の振興を目的に、既存産業団地の周辺や、広域交通道路、主要幹線道路、補助幹線道路沿線など、交通利便性に優れた区域において、計画的に産業系用地の確保を進めます。

### 観光レクリエーション拠点

- 広域的な観光の集客や多様な余暇活動を支える場を提供するため、市街地中心部の足利学校や鑿阿寺、東部地区のあしかがフラワーパークや栗田美術館、北部地区のハイキングコースやココ・ファーム・ワイナリーに代表される、本市固有の観光資源を観光レクリエーション拠点として位置付けます。

1

2

3

4

5

6

7

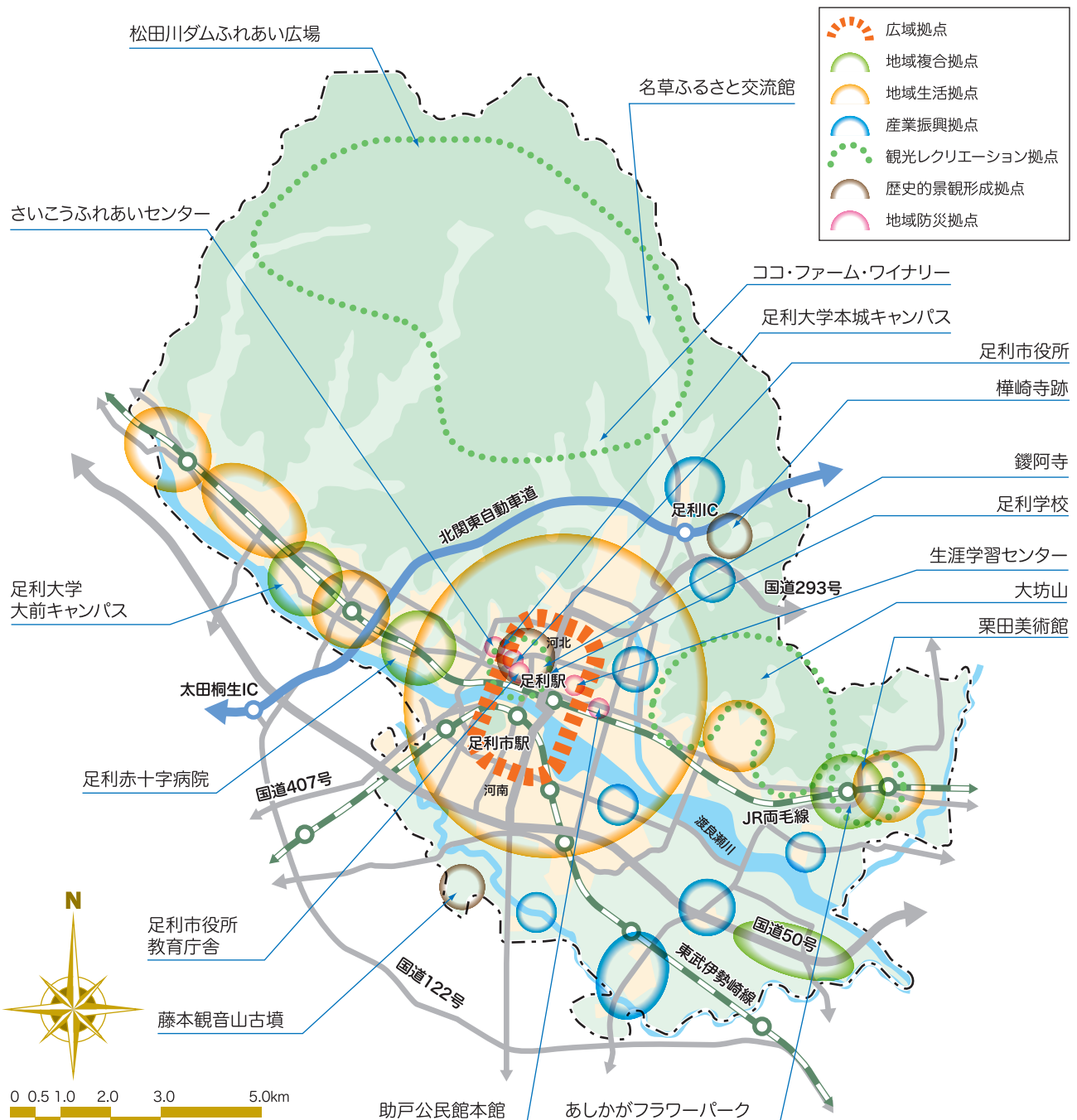
## 歴史的景観形成拠点

- 歴史的景観と自然的景観が織りなす、足利らしい魅力ある景観の形成を目指す拠点として、足利学校、鏝阿寺周辺や榊崎寺跡、藤本観音山古墳を歴史的景観形成拠点に位置付けます。

## 地域防災拠点

- 近年、全国的に地震や集中豪雨による河川氾濫など、異常気象に起因する大規模災害が多数発生しています。このような災害に備えるため、災害対策本部となる足利市役所、災害対策本部の代替施設となる足利市役所教育庁舎、生涯学習センター、さいこうふれあいセンター及び助戸公民館本館を地域防災拠点に位置付けます。

## 将来都市構想図：都市の核となる拠点の形成



## 都市軸、ネットワーク

- ▶ 地域の拠点や個性ある地域資源を交通網により連携し、移動の利便性や回遊性の向上を図ります。また、地域間の連携を強化することにより、人や物の流れを戦略的に活性化させ、まちづくりの好循環を生み出します。
- ▶ 都市軸の形成にあたっては、誰もが安全安心に都市活動を営むことができ、環境負荷が少ない「公共交通」を主軸とするため、JR両毛線、東武伊勢崎線を本市東西方向の移動の軸に位置付けます。また、各拠点と鉄道駅を生活路線バスでつなぎ合わせることで、公共交通の連携を強化し、利便性の向上を図ります。
- ▶ JR両毛線の足利駅と東武伊勢崎線の足利市駅は、それぞれが本市の主要な交通結節点であることから、生活路線バスの増便や歩行空間の整備により、互いの連携を強化し、利便性の向上を図ります。
- ▶ 本市の道路網は、基本的には格子状の道路形態ですが、渡良瀬川に架かる橋梁部においてはクランク形状で接続となる箇所も多いことから、南北市街地を結ぶ道路の連続性に支障が生じています。よって、南北市街地の一体化を図るため、クランク形状などを解消し、南北方向の都市軸を強化します。
- ▶ 本市の地形的な特徴に起因する、市街地中心部に集中する自動車交通を分散させるため、環状道路を整備し、安全で安心な道路網を構築します。また、広域交通道路である北関東自動車道と国道50号との連携を更に強化するため、主要な南北交通軸の整備、拡充を図ります。

### 広域連携軸

- 広域的な移動と連携を図るため、JR両毛線、東武伊勢崎線や北関東自動車道、国道50号、国道293号を広域連携軸として位置付けます。

### 都市間連携軸

- 両毛地域をはじめとした周辺都市との連携を図るため、JR両毛線、東武伊勢崎線や都市間をつなぐ道路を都市間連携軸として位置付けます。

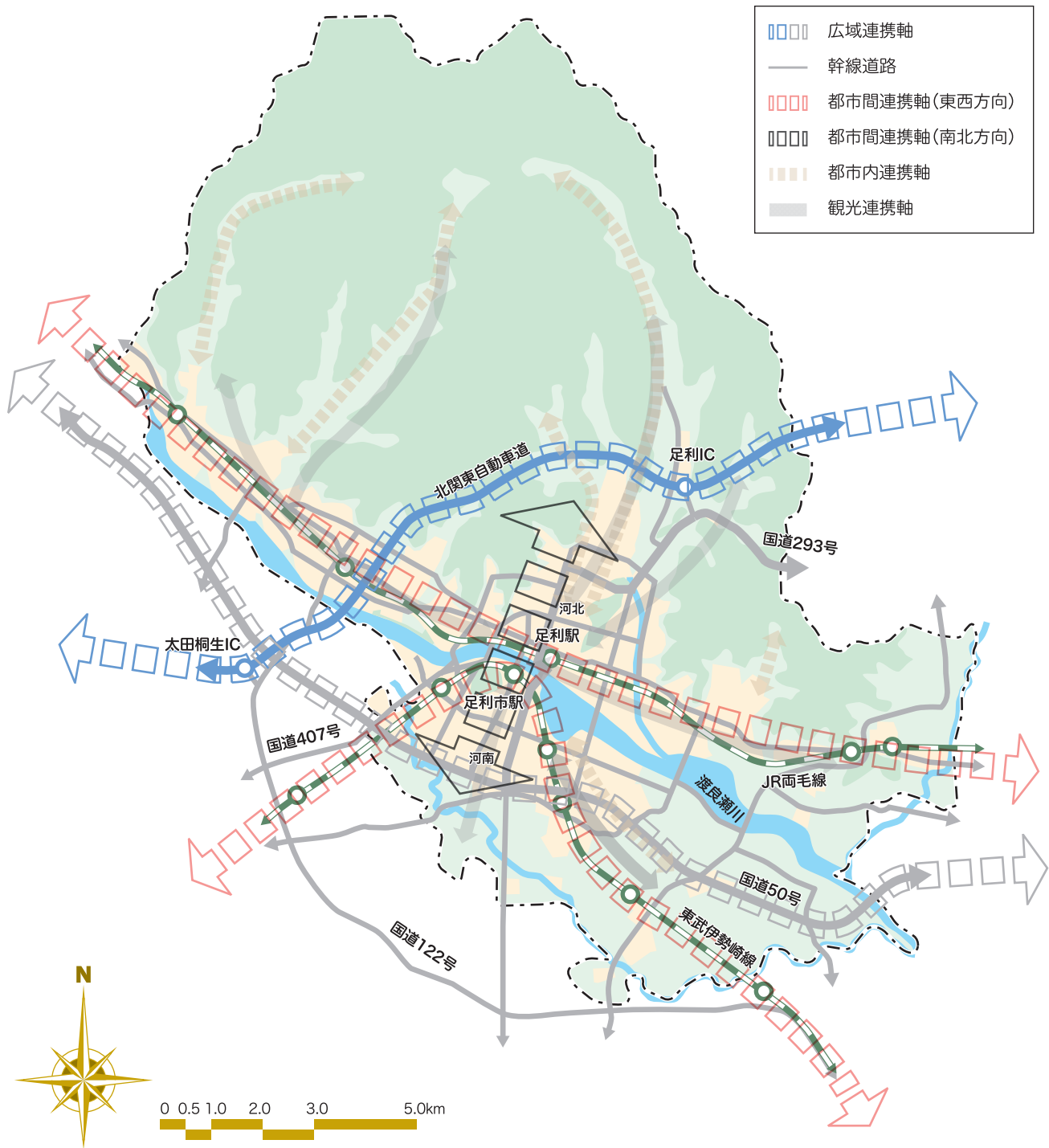
### 都市内連携軸

- 広域拠点や地域生活拠点の形成を支援するとともに、拠点間や周辺地域との連携を図るため、JR両毛線、東武伊勢崎線や生活路線バスを都市内連携軸に位置付けます。また、拠点間を移動するために必要な道路を都市内連携軸として位置付けます。

### 観光連携軸

- 回遊しやすい観光都市を目指すため、本市に存在する歴史、文化、自然などの多彩な地域資源をつなぐネットワークを観光連携軸として位置付けます。

将来都市構想図：都市軸、ネットワーク

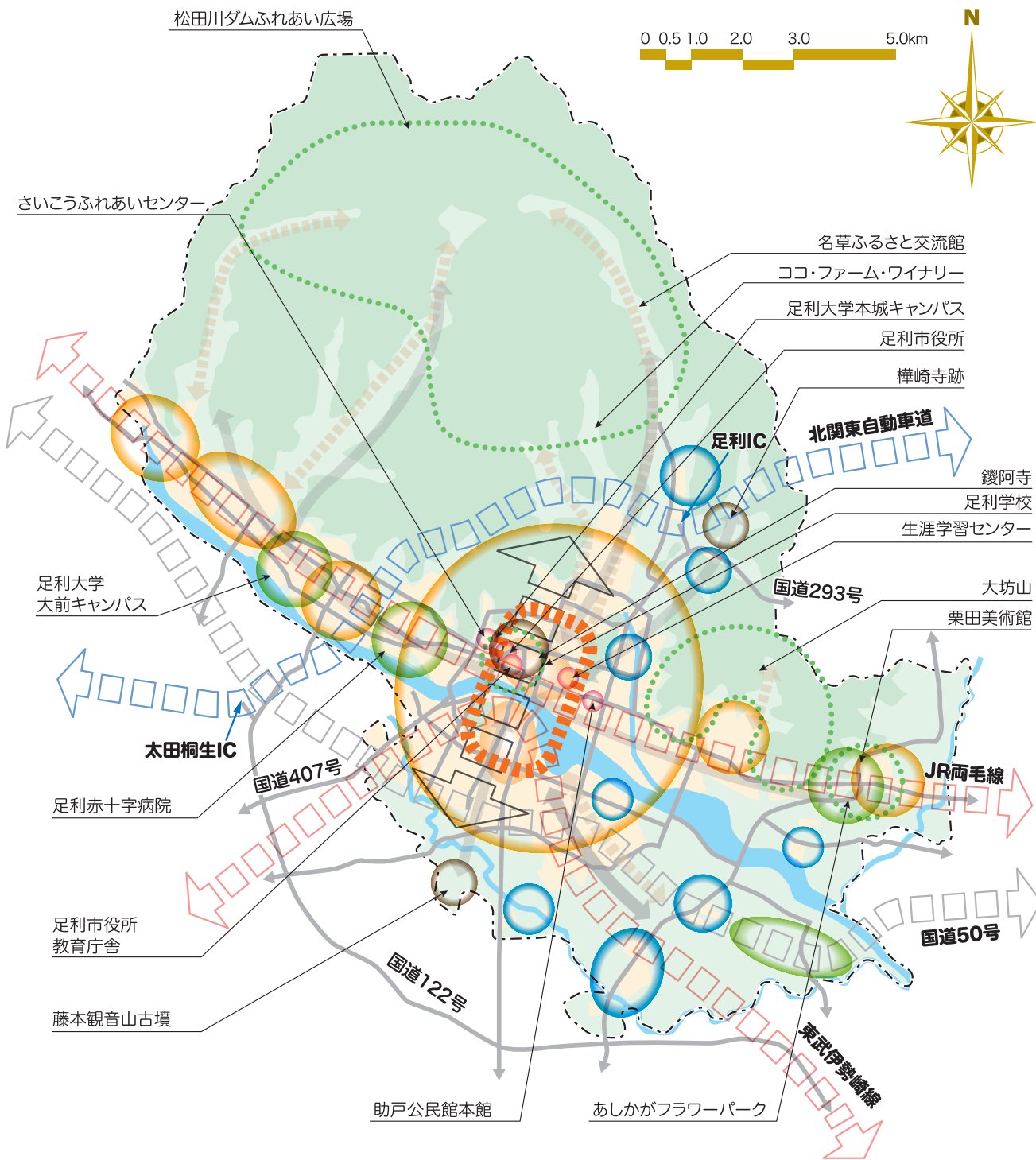


- 1
- 2
- 3
- 4
- 5
- 6
- 7

全体構想



# 将来都市構想図



全体構想

骨格的土地利用	都市の核となる拠点	都市軸、ネットワーク
市街地中心部ゾーン	広域拠点	広域連携軸
都市的土地利用ゾーン	地域複合拠点	幹線道路
田園的土地利用ゾーン	地域生活拠点	都市間連携軸(東西方向)
自然的土地利用ゾーン	産業振興拠点	都市間連携軸(南北方向)
	観光レクリエーション拠点	都市内連携軸
	歴史的景観形成拠点	観光連携軸
	地域防災拠点	